

■計画策定に向けた議論の進め方について

- ・ 計画策定の議論は、目的と手段がいつの間にか逆転しがちなので、ウェルビーイングの向上を目指すと最初に打ち出したことは非常に大きい。
- ・ EUのモビリティ計画の指針（SUMP）のように、ビジョンや目標をまず決めて、そこを到達点としてバックキャスト形式で計画を立てていかななくてはいけない。
- ・ カーボンニュートラルが大きな議論の1つになる。カーボンニュートラルに対応する中で、ウェルビーイングの向上を目指す議論をすべき。
- ・ それぞれの立場は一旦離れて、将来、地域をどうしていきたいかを本音ベースで話をしてビジョンを描いていきたい。そのために、色々な勉強会を開くなど、みんなで考え方や事例を共有していくことが大事。
- ・ 高齢者の視点、担い手側の視点も大切にしてほしい。

■地域交通におけるウェルビーイングの向上について

- ・ 交通手段の選択肢が多くあることが、ウェルビーイングの向上を目指す上で大切なこと。
- ・ 人の役に立つ、地域に貢献する機会が1つのウェルビーイングになると思う。地域で支えあう、住民同士で助け合うことで住みたいまちに住む社会の実現に向けて貢献していきたい。
- ・ 自家用車がないと何もできないという多くの県民の意識が変わっていけば、カーボンニュートラルへの対応やウェルビーイングの向上にもつながる。

第1回富山県地域交通戦略会議（6/2）における主なご意見②

■施策の方向性について

- ・ ウェルビーイング向上を目指すのであれば、今までの赤字補填の観点ではなく、公共交通の利便性向上への支援をやっていくという形で、行政からの支援の考え方、方向性を見直す時期にきているのではないか。
- ・ 交通事業者間の協調に加えて、事業者だけでは実現が難しい施策についてもぜひ議論していきたい。
- ・ MaaS、オンデマンドなどデジタルを活用した新しい取組みが進めば、移動データの利活用、サブスクリプションサービスやポイントサービスなどの新サービスの導入も容易になる。
- ・ 県民の理解を得ることが大事。例えば、交通機関の待ち時間についても、何分までは許容してもらえるか、県民の思いも大事になってくる。

■市町からのご意見

- ・ 市でも地域公共交通計画を策定することとしており、市の計画策定も県の地域交通戦略と整合がとれるように取り組んでいきたい。
- ・ 市民アンケートでは、高齢になって運転できなくなったときの将来的な不安をたくさんの方が抱えていらっしゃる。地域協働型のコミュニティ交通を整備して将来的な車社会からの移行に備えていきたい。
- ・ 町内だけでなく、富山との連携において地鉄本線は欠かせない。鉄道線の維持をお願いしていきたい。

① 「ウェルビーイングの向上」を目指す計画にすること

② まずは県の将来ビジョンとなる基本的な方針・考え方を整理し、その実現に向けた具体的な施策・事業を設定していく

など、「富山県地域交通戦略（ポイント）」（参考資料2）等をもとに、今後議論を進めていくことが了承された。